



1 年グローバル課題研究（導入プログラムのお知らせ）

平成28年度より国際コースに啓明コースが加わり新規授業として「グローバル課題研究」が展開されます。1 年生グローバル課題研究(平成 28 年度 国際・啓明コース 1 年対象)の「導入期」として、NPO 法人 NIED・国際理解教育センターより講師を招き、5回(8 時間予定)に渡り「アクティブラーニング」によるワークショップを実施し、まずは「世界の現状を学習」します。

1 年 グローバル課題研究：世界の現状を知り考える学習（8時限／5回）

－「教えられる」のではなく、自ら発見する力を養い、「気づき」を「行動」へとつなぐ－

■ 学習全体のねらい

- ① 自分たちが生きる社会をふりかえり、人権、環境、開発、共生、平和などの人類共通の課題(＝グローバル・イシュー)について理解する。
- ② 自分と他者、社会、未来とのつながりに気づき、課題解決やよりよい未来づくりになぜ自分が関わることが必要か、わかるようになる。
- ③ グローバル・シチズンとして、課題解決とよりよい未来づくりに必要な、「自己、他者、社会に関わる力」※を育む。

※自己肯定感／コミュニケーション力(思考力、表現力、傾聴など)／参加・協力・対立 解決・合意形成、アドボカシーの力など

■ プログラム構成

本学習は、4テーマ、全8時限で構成されています。各テーマのタイトルやねらいは下表のとおり。

テーマタイトル	時限数	ねらい
世界と肯定的に出会う ～人と世界の多様性と 同一性～	2時限	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加型で学び合うワークショップのポイントを体験的に理解する。 ② 人や世界の多様性を実感し、違いを肯定的に受けとめると同時に、心の同一性にも気づく。 ③ 人の価値観は多様であり、一方の価値観の押しつけは対立につながることに気づく。
世界と自分のつながり ～グローバル化の光と 影～	1時限	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分と他者、自分と世界は、どこでどのようにつながっているのかふりかえり確認する。 ② 世界と日本を俯瞰し、グローバル化による恩恵は何か、恩恵に預かっている人は誰かを理解する。 ③ 恩恵がある一方、グローバル化した世界は多くの課題を抱えていることに気づく。
世界の現状と課題 ～グローバル・イシュー …何が問題？なぜ問 題？	3時限	<ul style="list-style-type: none"> ① グローバル・イシューを、人権(貧困)と環境(持続可能性)の視点から掘り下げつながりに気づく。 ② 問題の現状を知り、原因を探り、解決に向けて必要なものや役立つことを考える。 ③ 様々な参加型手法を活用し、協力して学ぶ力、ファシリテーションの力、システム思考を養う。

国際協力と社会貢献 ～グローバル・イシュー とグローバル・シチズン ～	2時限	① 国際協力や社会貢献とは何か、その意味を知り意義を考える。 ② 日本が行う多様な国際協力や日本の中で取り組まれている社会貢献活動についての情報を得る。 ③ グローバル・シチズン(地球市民)として、これから自分はどう社会や世界に関わるのかを考える。
--	-----	--

■ 日程

テーマタイトル	回	日時 場所	クラス・人数	担当
世界と肯定的に出会う ～人と世界の多様性と 同一性～	第1回	4月16日(土曜)3・4限 10時50分～12時40分 化学室・物理室・生物室	啓明コース 国際コース 計140人を 3クラスに分ける (1クラス50人以内)	ファシリテーター： 伊沢令子、平野木恵 (NPO 法人 NIED・国際 理解教育センター) 長野智帆 (春日丘高等学校 SGH アドバイザー) ※担任、副担任は、 各クラスでサポート
世界と自分のつながり ～グローバル化の光と影	第2回	4月19日(火曜)7限 15時20分～16時10分 化学室・物理室・生物室		
世界の現状と課題～ グローバル・イシュー… 何が問題？なぜ問題？	第3回	4月26日(火曜)7限 15時20分～16時10分 化学室・物理室・生物室		
	第4回	4月30日(土曜)3・4限 10時50分～12時40分 化学室・物理室・生物室		
国際協力と社会貢献～ グローバル・イシューと グローバル・シチズン	第5回	5月7日(土曜)3・4限 10時50分～12時40分 化学室・物理室・生物室		



「アクティブラーニング」の基礎知識

「アクティブラーニング」とは、狭義の定義では、「学生が主体性をもって様々な人々と協力して問題を発見して、問題を解いていく、能動的学習」を指します。ここで言う能動的学習とは、「書く、話す、発表する」などの活動を伴う学習です。アクティブラーニングは学習の定着率を上げるのが目的で、その手法として、「**マンダラート**、**KJ法**、**ジグソー法**」などいろいろあります。

アクティブラーニングの定義【広義】

教員からの一方向的な講義型授業以外全て、
宣言的知識・手続的知識を問わず、学習定着率を
上げるのが目的。

「あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」
(溝上, 2014)



教授方法と学習定着率のラーニングピラミッド
出典: アメリカ国立訓練研究所(National Training Laboratories)

左は、アメリカ国立研究所の「ラーニングピラミッド」。講義のみの学習による学習定着率は「5%」ですが、グループ討論を効果的に組み入れると、その数値は「50%」に上昇し、さらに「学習したことを他者に教える」ことを組み込むと、学習定着率は「90%」になるという数値結果が読み取れます。アクティブラーニングには「マンダラート」、「ジグソー法」、「KJ法」といったスキルがあります。東北教育委員会の指導主事によると、数学のアクティブラーニングは「ジグソー法」が最適とか。今回講師を依頼しているNIEDさんもいくつかの手法を実演してくれます。みなさん、見学にきてください。